



実と剛「次男の選択」(4)

最初の寝床は駅ベンチ

大相撲11月場所は、大関貴景勝が2度目の優勝を飾った。一方で正代、朝乃山の期待の2大関が途中休場。2横綱がともに全休した。白鵬(35)は本来今夏の東京五輪のセレモニー出演を「最後の花道」と周囲に漏らしていただけに、コロナ禍のため1年延期は計算が違ったかもしれない。膝の故障は既に限界点なのか? 「親方転身の絶対条件」である日本国籍は既に取得済みだ。「柏鵬(柏戸・大鵬)両者の強さを併せ持つ力士になれ」と名付けられ、幕内優勝44回の角界第一人者

が晩年を迎えている。時の流れを改めて感じる。

さて京都市立美術大(現京都市立芸術大)に昭和28

(1953)年、22歳で入学した富樫実が最初に取った京都の寝床は国鉄京都駅の構内ベンチだった。4月14日山形を出発後、京都駅に着いて後、雨風をしのげる場所はそこしかなかったのだ。戦後8年。世情は少しづつ落ち着いてきたとはいえ、傷痍軍人などはまだまだ多く、同じ府内で日本海沿岸の舞鶴市にはシベリア抑留からの復員兵が引揚船で

戻ってきた。これは33年まで続き、全国各地への乗り継ぎ駅でもあった京都駅は戦争の名残りも色濃かった。

額縁づくりのバイト

ただいかにも学生風情が夜になると駅構内に姿を現し、最終列車が出発するとベンチに体を横たえる姿に駅員から「何か困っていることでもあるのか」と尋ねられた。事情を話すと「そうか、美大生ならこんな仕事があるよ」など紹介してくれる人もいた。それらが巡り巡って洋画の装飾された額縁を彫るアルバイトにたどりついた。

そなたした過程でも芸術に真正面から向かい合った時、根源的な意味で孤独感に襲われることが何度もあった。その時に「奈落の底の心を癒やしてくれたのは故郷の温かい静かな風景だった」

故郷の温かい風景

高校時代は、実の居た本

無料貸し出しあり

○：鶴岡市は富樫実から生前寄贈された「小型サイズの「空」にける階段」を民間事業者、学校、公共施設などに無料で貸し出し

ている。最長1年間。170点中、貸し出し中以外の約70点は可能な状態。「ガラスケースなどには入れないでほしい。触って感じてほしい」が作者としての希望だった。問い合わせは鶴岡市役所欄引庁舎総務企画課 電0235(57)2111へ。



2年後に閉校の山添高(現鶴岡南高山添校)正面の「空にける階段」(98-Ⅶ)

彫刻家人生が軌道に乗り始めた。32年に大学卒業後、技術をさらに磨き、38年ユ



(97-ⅩⅩⅦ)のような小型の「空にける階段」が貸し出される

家に勝も訪れて一緒に勉強した。実は美大受験。勝は合格しながらも家を継ぐため断念した富山の商船学校入試のためだった。いずれも家族には内緒。豆電球を布団に隠しての受験仲間だった。

高い貸衣裳代に!?

モニュメントの600万円の製作費は戦後創立という学校の歴史の浅さもある、なかなか寄付が集まらず、結局実自身の寄贈という形になった。

大学受験時、もともと剛が着ていた学生服を勝から借りた実は「高い貸衣裳(学生服)代になったな」と冗談を飛ばしたが、笑顔は崩さなかった。こうして故郷でも彫刻家として地歩を築いたが、それに至るまでは紆余曲折もあった。

敬称略 (富樫 嘉美)

毎週火曜日付に掲載